

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

No. 27

特別編終了にあたって

この「History 新野左馬助親矩 特別編」は、大河ドラマ「おんな城主 直虎」応援プロジェクトの一つとして、新野左馬助公や同公にまつわる史跡などを、27回にわたって紹介してきた。紹介した内容は、故鈴木東洋氏の長年の研究を基にしている。研究では左馬助公の正室(奥山朝利の妹)は、夫の死後、苦勞して娘たちを育て新野家を守っていたことも分かっている。また、左馬助公の兄式部少輔親道は、障がいにより新野家を継げなかったとされるが、永禄11年(1568年)、武田軍が駿河に攻め込んできた際には、薩埵山の合戦に大将として出陣したことなど、紹介できなかったことも多く、残念である。

さて、1月27日には、新野左馬助公展示館がリニューアルオープンし、新野の古代史コーナーなどが追加され、さらに内容が充実した。ドラマ終了後も、歴史ファンや市内団体の来館が続いている。皆さんには、これからも展示館に足を運び、新野の歴史や左馬助公を知っていただくことをお願いして、この特別編を終了する。

照会 社会教育課 ☎0537-298735



▲古代史展示コーナーを見学



▲左馬助公にまつわる話を聞く高松子ども教室の参加者

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

Atomic

暮らしと原子力

原子力講演会「福島放射線リスクとメディア報道のウソ・ホント」

- ① 新聞もテレビも一つだけにこだわるのは危険、複数の媒体を見るのが重要
 - ② 新聞の記事は何かを考えるきっかけ
 - ③ どんな情報も疑ってかかる必要がある
 - ④ 時には自分より専門知識のある人に聞いたりすることが大事
- 「福島の放射線リスクとメディア報道のウソ・ホント」まで信じられるか」を演題に、浜岡原子力発電所安全等対策協議会主催で原子力講演会が2月20日、菊川文化会館アエルで開かれました。
- 講師は毎日新聞社生活報道部編集委員の小島正美氏で、新聞報道に長年携わってきた経験から、メディアで報道されている情報の信頼性について講演しました。
- 講演では、「再生可能エネルギー」や高速増殖炉「もんじゅ」、子宮けいがんワクチンなど、具体例を挙げて新聞報道の真相とその見極め方、メディアのあるべき姿について話しました。
- その中で、
- ① 新聞もテレビも一つだけにこだわるのは危険、複数の媒体を見るのが重要
- ② 新聞の記事は何かを考えるきっかけ
- ③ どんな情報も疑ってかかる必要がある
- ④ 時には自分より専門知識のある人に聞いたりすることが大事
- とポイントを説明しました。
- 私たちは、どの情報が正しいのか判断するために、いろいろな角度から物事を見るのが大切です。



▲原子力講演会の様子